

2005年12月15日発行

日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 2

Maxillofacial Prosthetics

発行人 谷口 尚

編集 広報委員会

事務局 T135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第22回学術大会報告

平成17年6月16日(木), 17日(金), 日本大学会館において石上友彦総会長のもと第22回日本顎顔面補綴学会総会および学術大会が開催された。

第22回学術大会レポート

第22回日本顎顔面補綴学会総会

総会長 石上 友彦

日本大学歯学部
補綴学教室局部床義歯学講座

平成17年6月16日(木)
~ 17日(金)の2日間,
東京都市谷にある日本大学
会館において上記学術大会
が日本大学歯学部補綴学教
室の主催で行われた。当日
は頭頸部癌学会と重なった

が、一般演題26題、参加者は約150名で、終日活発な質疑応答が行われ、会場係も質疑応答の収集に汗だくの盛会な大会となった。

特別講演は「口腔癌のリハビリテーション」と題して日本大学歯学部摂食機能療法学講座の植田耕一郎教授により、器質的障害に対する統合医療的アプローチについて、また、現状の摂食機能障害のリハビリテーションについて熱い講演がなされ、今後の歯科医療のあり方を啓発され、会員に



大きな感銘と元気を与えるご講演であった。

第10回の教育研修会は「舌の再建」と題し、岩手医科大学の水城春美教授の座長の下、鶴見大学の川口浩司先生、昭和大学の鈴木規子先生、東京医科歯科大学の隅田由香先生により外科的再建方法から機能的解析、補綴的回復に関してのご講演があり、会場からの活発な討論が行われ、臨床に直結した意見の交換がなされた。

初日の夜に同会館で行われた会員懇親会には、約60名の参加を頂き、午前中の質疑の継続もあったが、和やかな雰囲気の中、配られた団扇を片手に楽しい内輪の会となった。

特別講演

口腔癌の摂食・嚥下リハビリテーション

植田耕一郎

日本大学歯学部摂食機能療法学講座

学術大会2日目の午後、植田耕一郎先生(日本大歯学部教授)による特別講演が開催され、「口腔癌と要介護高齢者の摂食・嚥下リハビリテーション」というテーマで講演された。口腔癌の手

術後におこる器質的障害（形態障害）もさることながら、近年の医学の発達による高齢社会に伴って増加傾向にある脳卒中の後に起こる機能的障害（神経筋障害）のリハビリテーションの実際や、その重要性についての講演であった。

脳卒中患者ではその救命や、救命された患者の麻痺した手足などの運動器官のリハビリに注目が集まっているうちに頭頸部領域が放置され、過度の安静のために頭頸部に廃用が生じ、口腔にも廃用・障害が生じてしまう。そのため脳卒中による死亡率が大幅に減少した反面、口腔機能に障害をもつ患者は増加傾向である。つまり要介護高齢者の齲歯、歯周病、義歯の問題は全身疾患発症後の障害（重複障害）であるといえる。また口腔癌などの術後では器質的（形態）障害が引き起こされる。手足のリハビリに相当するような口腔領域の



植田耕一郎先生

リハビリには大きく分けて1.治療的・訓練的アプローチ、2.代償的アプローチ、3.環境改善的アプローチ、4.心理的支援があげられる。今回の講演では治療・訓練的アプローチに焦点をあてて、食べ物を使わない間接的訓練、食べ物を使った直接的訓練、代替訓練、暫間的減薬療法について、所属される摂食機能訓練室で行われているリハビリについて紹介され解説された。全身的な訓練ではマシンを使ったものや、局所的には舌・口唇のストレッチなど、直接訓練では水飲みテストやゼリー摂取、鍼・按摩などの紹介があったが、そんな中でも本当に必要な摂食機能療法の技術とは患者様への声かけのタイミング、雰囲気に応じた声の抑揚、他医療職への気のまわし方、次の治療・訓練につなげる動機づけといったことではないだろうかということであった。（広報 諸井）

第10回教育研修会報告

・舌切除に伴う再建方法の選択

川口 浩司

鶴見大学歯学部 口腔外科第1講座

今年度の教育研究会は、岩手医科大学の水城晴美先生が座長を務められ、「舌の再建」をテーマに3名の先生にご講演いただいた。

まずは、鶴見大学歯学部口腔外科第一講座の川口浩司先生が「舌癌切除に伴う再建法の選択」と題して講演された。

わが国では、舌癌に対しては舌部分切除、舌半側切除、舌亜全摘を施術することが多い。

診療科での口腔癌748症例のサバイバルレートは86.2%であり、術後12～15年の舌再建症例をみると皮弁は小さくなるため、「残せる舌をいかに残存させられるか」が課題であると述べられた。

鶴見大学歯学部口腔外科第一講座での再建方針については、以下のごとく提示された。

1. 1cm以下のT1やearly T2（内向浸潤型を除く）は舌部分切除を行い、縫縮する。植皮よりも縫縮がよいが、小さな切除ほど難しい。

2. late T2、内向浸潤型は可動部舌半側切除を行い、症例により大胸筋皮弁、前腕皮弁、腹直筋皮弁を行う。やや大きめの皮弁を採取し、縫合は残存舌の動きを妨げないよう、特に大胸筋皮弁の場合は、残存舌の前方3cmほどは皮弁と縫合せずに、残存舌の可動性を生かすよう再建している。

3. 舌半側切除やT3 T4に対する舌亜全摘、舌全摘の場合、6割が大胸筋皮弁で、残りが腹直筋皮弁で再建する。特に、舌全摘の場合、前方部を盛り上ることにより食物が皮弁のなだらかなスロープを滑るように縫合する。

また、腹直筋皮弁を残存歯で噛みこむ場合はシーネ装着で対処したり、再建舌のボリュームが小さすぎる場合は舌補綴物を応用したりと、経験された補綴的工夫についても指南いただいた。

最後に症例のVFを供覧され、術後の嚥下機能改善のために、まず唾液の空嚥下訓練を行うと教

示された。残存舌が1/3あれば嚥下は可能であるとも付け加えられた。

非常にまとまった教育講演であり、口腔外科系はもとより、補綴系の若手の先生方にも十分勉強になったと思われる。（広報 松山）

* * *

・舌再建方法と後遺する機能障害

鈴木 規子

昭和大学歯学部

顎口腔疾患制御外科学講座

教育研修会「舌の再建」の2題目の講演は昭和大学歯学部の鈴木則子先生によって「舌の再建方法と後遺する機能障害」という演題で行われた。教育研修会という主旨にそって最初に基本的項目の解説があった。1番目に通常の摂食・嚥下機能の基礎的事項確認のために摂食嚥下の段階について解説が行われた。続いて咀嚼時の舌運動に関して第1相（準備層）第2相（ねじれ相）第3層（保持相）の説明が行われた。さらに嚥下運動について確認があり、その後咽頭相へ向けての口腔機能について食塊保持、食塊搬送、嚥下量の調節といった項目、さらには舌背～口筋部・舌根が重要であるという解説が行われた。この項目の最後には、嚥下反射についての説明が行われた。2番目の項目として発声発語機能ではThe Speech chainについて説明が次のように行われた。先ず「音響的段階」（声を発する）「生理学的段階（聞き手の耳に到達する）」「言語学的段階（内容を理解する）」「言語学的段階（何を言おうか）」「生理学的段階（こう答えよう）」「音響的段階（声を作る）」相手の耳に届く、という解説の後、生理学的段階の詳細にふれ、音声言語の発生のメカニズムの解説があった。3番目の項目として嚥下機能と発声・発語機能の関係についてふれ、機能の分担や協調について解説があった。

次の摂食嚥下障害の項目では、嚥下障害と誤嚥についての話があり、さらに発声発語障害の項目では舌切除後におこる構音障害の解説が行われた。

切除範囲、再建方法による機能障害の項目では、最初に舌の切除範囲の分類が示され、この分類に基づいた機能障害を次のように解説された。

- ・前腕皮弁再建例では舌の切除範囲が大きくなるに従って摂食機能が低下していた。・主観的評価、客観的評価でも舌の切除範囲が大きくなると舌による食物の移送の能力が傷害されるが、咳嗽反射はあまりかわらない。・亜全摘より切除範囲が小さければ咽頭期はそれほど重度の障害ではない。
- ・水飲みテストの結果から可動部半側切除前腕皮弁再建症例であればそれほど問題がない。同様に発音の障害についても次のように報告があった。
- ・舌・口底切除前腕皮弁再建症例では舌部分切除でほとんど問題がない。・可動部半側切除は、それほど障害は重度ではない。・亜全摘、両側口底切除症例では障害は重度である。

その後具体的な術後機能を評価する方法や舌切除症例の紹介があり、機能障害のリハビリテーションには口腔外科、言語聴覚治療室、看護部、口腔衛生、補綴科、保存科、栄養科によるチーム医療が必要であるとまとめられた。（広報 伊藤）



左より隅田由香先生、鈴木規子先生、川口浩司先生

* * *

・補綴治療による咀嚼・発音機能の回復

隅田 由香

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面機能修復学顎顔面補綴学分野

隅田由香先生のご講演は、「補綴治療による咀嚼・発音機能の回復」という演題であり、舌再建症例を含めた顎補綴症例における客観的機能評価の重要性、さらには外科と補綴、リハビリテーションとが一体となった治療の必要性を訴える内容であった。

顎顔面補綴症例のなかで下顎・舌欠損は20%以上であり、高頻度に遭遇する症例であることが述べられ、舌再建後に根面アタッチメントを応用した顎義歯を装着した症例が提示された。また舌

再建後の形態のために患側を補綴できなかった症例を通じて、補綴サイドから外科に対する要望が示された。この点については講演後のディスカッションでも反響があり、本学会の重要性が再認識された。

次いで舌欠損に伴い咀嚼、発音、嚥下機能に障害が及ぶことと、これらに対する評価方法や補綴治療による回復程度について紹介された。咀嚼機能に関しては、ワックスキューブを用いた混合能力評価法により、舌再建症例で補綴後に改善がみられたことが報告された。構音機能では、舌接触補助床製作法が紹介され、F2 range method や発語明瞭度検査、舌圧測定などから、舌再建症例に対する顎補綴装置装着の有用性を示された。また嚥下機能については、6自由度下顎運動測定装置を応用して甲状軟骨の上下的移動を捉え、嚥下時に最高位に達するまでの時間を基準として評価する方法により、舌切除後の患者が舌接触補助床装着により正常者のデータに近づくことが述べられた。さらに舌切除後のリハビリテーションについても触れ、構音訓練では患者の意欲を高め、軽度のものから順に進めること、リハビリテーション部門との共同作業で対応していることが紹介された。

本講演を通じ、隅田先生を中心とする部署の先生方が顎顔面補綴治療に客観的機能評価を広く取り入れ、評価結果に基づきより高度な機能回復やQOL向上を目指して、真摯に取り組んでおられることに感銘を受けた。また教育研修会ということもあってか、ともすれば難解になりそうな部分についても非常に理解しやすく説明されていたことは特筆すべき点であり、隅田先生の活躍は本学会の活性化に大きく貢献するであろうと思われた。

(広報 山森)

「関節突起を含む下顎切除後の顎偏位に対する補綴的機能回復」(第27巻第2号613)



清野和夫主任教授、島崎伸子先生

この度は、日本顎顔面補綴学会平成16年度優秀論文賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

下顎頭を含む下顎再建に際しては、下顎骨の偏位や下顎運動制限の予防および後続する顎義歯装着による機能回復を可能にするため、顎口腔系の環境整備が求められます。本論文では、下顎頭付き金属プレートを用いた下顎再建症例に対して、患側残存歯に側方滑走運動の誘導面をもつ歯冠補綴装置を装着することにより下顎の偏位を可及的に小さくし、その経過および機能回復について検討いたしました。その結果、下顎運動制限は残遺するものの、下顎限界運動路や咀嚼ストロークに改善が認められ、咀嚼機能が十分に発揮されていることが確認できたことを報告いたしました。

受賞にあたり、専門的立場からご助言をいただきました編集委員の先生方に心から感謝申し上げます。思えば講座主任のS教授より「あの論文は投稿したのか?」の言葉に始まり、投稿したものの編集委員の先生方には何度もご迷惑をおかけいたしました。振り返りますと、投稿しましたのが2004年1月で、論文になりましたのが12月ですからちょうど1年間を要したことになります。その間、学会でK先生にお会いすると詳細なご指導を受け、S委員長には「もう少し頑張ってね」と励まされ、何とかここまでまとめることができました。今回の受賞は、編集委員各位の多大なるご苦労と同門の先生方の大きな励ましにより頂いたといっても過言ではないと思います。深く深く御礼申し上げます。

受賞者の声

平成16年度優秀論文賞

島崎 伸子
奥羽大学歯学部 歯科補綴学講座

これからも、受賞いたしました事を心の勲章にして精進して参りたいと思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願い申し上げます。

第4回 AAP報告

伊藤 創造

岩手医科大学 歯科補綴学第二講座

第4回アジア補綴学会 (The 4th Biennial Congress of Asian Academy of Prosthodontics) が 2005 年 8 月 9 日～11 日の 3 日間、タイのバンコクで開催された。学会会場はインペリアルクイーンズパークホテルで、発表、オープニングセレモニー、ウェルカムレセプション、Gala Dinner と名付けられたバンケットもすべて同ホテル内で行われた。参加人数は 600 人以



インペリアルクイーンズパークホテルでのオープニングセレモニー上で、日本からは本学会理事長の谷口尚教授、前理事長の石橋寛二教授をはじめ多くの先生方が参加された。第6回タイ補綴学会併催ということでタイで活躍中の若手歯科医が数多く参加していたのが印象的であった。日本からはポスター発表が 21 題、口演発表が 2 題と多数の演題発表が行われた。また、特別講演をはじめ一般演題でもインプラントに関する発表が多いのが目立った。

オープニングセレモニーにはタイ王室のプリンセスがご出席され非常に厳粛にセレモニーが進められ、6 台のテレビカメラとホテル内の厳重な警備が印象的であった。しかし、その後のウェルカムレセプション、バンケットは和気藹々とした雰囲気の中で、アジアをはじめ多くの国から出席した参加者が交流を深めていた。タイの伝統工芸、伝統芸能が披露され、わずかな時間でも十分にタ

イという国の歴史の重さを感じることが出来た。2 年に一度開催されるこの学会は、次回第 5 回アジア補綴学会が日本で開催されることが決定しており、今度は日本の良さを各国の皆さんに感じてもらいたいという感想をもって日本に戻って来た。

第53回 AAMPレポート

隅田 由香

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面機能修復学顎顔面補綴学分野

2005 年 10 月 22 日から 25 日まで、America Los Angeles の Hyatt Regency Century Plaza Hotel において、第 53 回 American Academy of Maxillofacial Prosthetics 定例大会が Thomas Vergo, Jr. 大会長によって開催された。カルifornia であるにも関わらず、肌寒く、空は曇り、時折雨が降るという生憎の空模様の中での開催となつたが、空模様とは相反するよう に、大会はいつもと変わらぬ活発な学会であつた。まず 10 月 22 日に迎えた初日には、通例の Poster competition が開催された。今回は総計 11 演題がエントリーされており、日本からは、東京医科歯科大学大学院顎顔面補綴学講座の門田千晶による "Evaluation masticatory function in maxillofacial prosthesis patients" 及び、宮原舞による "Evaluation of voice quality with acoustic measurements in mandibulectomy patients" の計 2 題の発表がなされた。この他、一般講演による総計 12 題のポスター発表も同会



Poster competition において



Scientific programにおいて
場において行われた。日本からは、愛知学院大学の尾澤による "Evaluation of facial impression technique using Non-contact 3-D digitizer"、日本大学の三橋による "Modulation of medullary dorsal hone neuronal activity following experimental dental implantation in rats"、そして東京医科歯科大学の隅田による "A case report of facial prosthesis with OP-Anchor attachment" の計 3 題の発表が行われた。

2 日目の 23 日には朝 8 時からの大会長による大会宣言の後、4 日目まで続く Scientific program が始まり、多岐に亘るテーマが論じられた。外科療法では頭頸部腫瘍により口蓋帆が機能しなくなったケースの検討、フラップを用いた各症例や高圧酸素療法を用いた症例についての報告などが行われた。3 日目は 2 日目同様に Scientific program が行われ、この日はデジタル手法を顎面領域、および医療の世界にどのように用いることが出来るのか、その利点と欠点について論じられた。また、同セッションにて義歯床の歯肉色のマッチングについてという演題も取り上げられており、ここでは日常臨床で頻繁に使用される床用レジンの報告であった為、関心も高く、話題をよんでいた。同日の夜には Banquet が行われ、今期大会長 Thomas Vergo 先生から、次期大会長には AAMP にとって初めての女性大会長となる Jacob, Rhonda F 先生が就任することが発表され、次期大会は ISMR とのジョイントで、ハワイにて開催されることがアナウンスされた。なお、最終日の午後には Continuing education course も開催された。

第23回学術案内

日 時：平成18年6月23日(金),24日(土)
総会長：久保吉廣（徳島大）
場 所：長井記念ホール（徳島大学薬学部）
〒770-8505 徳島県徳島市庄町1丁目78番地の1
TEL 088-633-7245

プログラム（予定）

- ・特別講演（市民フォーラム）
「心のバリアフリー」
福島 有佳子氏
(川村義肢株式会社 工房アルテ 主任技師)
- ・教育研修会
テーマ「口蓋裂の形態的・機能的回復」
座長：沖本公繪先生(九州大学大学院助教授)
講師：
 - 1) 口蓋裂の外科手術：中西秀樹先生
(徳島大学医学部形成外科教授)
 - 2) 口蓋裂の補綴：石上友彦先生
(日本大学歯学部教授)
 - 3) 口蓋裂の機能回復：館村 卓先生
(大阪大学大学院助教授)
- ・一般講演

第23回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会のご案内

第 23 回日本顎顔面補綴学会総会

総会長 久保 吉廣
徳島大学病院
特殊歯科総合治療部



第 23 回日本顎顔面補綴
学会総会ならびに学術大会
を徳島大学医学部・歯学部
附属病院特殊歯科総合治療
部でお世話させていただく
ことになり 誠に有り難く、
光栄に存じます。

研究会時代の 1982 年に歯科補綴学第二講座坂東永一教授のもとで開催された第 23 回学術大会、1996 年に同じく坂東永一教授のもとで開催された第 13 回日本顎顔面補綴学会総会・学術

大会につづいて徳島で3回目の開催になります。前2回大会に負けないように鋭意準備を進めてありますので、多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

現在のところ教育研修会は「口蓋裂の形態的・機能的回復」というテーマで清野和夫学術委員長のもと準備を着々と進められていると伺っております。座長ならびに3名の演者もほぼ決定したとお聞きしております。

また特別講演として川村義肢株式会社 主任技師 福島有佳子氏に「心のバリアフリー」と題した講演をお願いしました。福島先生は大阪の新聞やテレビで数多く取り上げられ、エピテーゼを「人工ボディ」と呼んで、独自で着色等を勉強し、欠損した部位にエピテーゼをただ単に提供するだけではなく、心の問題まで踏み込んで、多くの人に生きる希望を与えておられます。どのようなお話を聞かせて頂けるか今から楽しみにしております。この特別講演は福島先生の同意を得て市民フォーラムとして一般の方にも聞いていただく予定しております。

会員懇親会も例年どおり予定しておりますが、徳島と言えば「阿波踊り」ということで、有名連との競演もお楽しみ頂ければと考えております。

以上準備状況をお知らせしましたが、たくさんの会員のご参加と演題申し込みを切にお願い申し上げます。

来年徳島でお会いできることを楽しみにしております。

平成17年12月



長井記念ホール

関連学会案内

国内学会

第25回日本歯科薬物療法学会

日 時：平成17年12月10日(土)

会 場：鶴見大学会館（横浜市）

大会長：石橋 克禮

お問合せ先：鶴見大学歯学部口腔外科学第二講座

TEL 045-581-1001

日本歯科医学会第22回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い(平成17年度)」

日 時：平成18年1月14日(土)

会 場：新歯科医師会館 1F 大会議室(東京都)

お問合せ先：日本歯科医学会事務局

TEL 03-3262-9214

第24回日本口腔腫瘍学会

日 時：平成18年1月26日(木),27日(金)

会 場：北九州国際会議場(北九州市)

大会長：池村 邦男

お問合せ先：産業医科大学歯科口腔外科学講座

TEL 093-603-1611(代表)

第24回日本接着歯学会学術大会

日 時：平成18年1月28日(土),29日(日)

会 場：鶴見大学記念館(横浜市)

大会長：福島 俊士

鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座

お問合せ先：(財)口腔保健協会コンベンション

事業部

TEL 03-3947-8761

第36回日本顎口腔機能学会

日 時：平成18年4月15日(土),16日(日)

場 所：鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス共通教育

棟6階インテリジェント室(鹿児島市)

大会長：山崎 要一

お問合せ先：鹿児島大学大学院医歯科学総合研究科口腔小児発達学分野

TEL 099-275-6262

第47回日本歯科理工学会(平成18年度春季)

学術講演会

日 時：平成18年4月22日(土),23日(日)

Newsletter No. 2

Maxillofacial Prosthetics

会 場：東タワーホール船堀（京都市）
 お問合せ先：明海大学歯学部歯科材料学講座
 第60回日本口腔科学会総会
 日 時：平成18年5月11日(木), 12日(金)
 会 場：名古屋国際会議場（名古屋市）
 大会長：亀山 洋一郎
 お問合せ先：愛知学院大学歯学部病理学講座
 TEL 052-751-2561(内)323
 第17回日本老年歯科医学会総会・学術大会
 日 時：平成18年6月1日(木), 2日(金)
 会 場：沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）
 大会長：砂川 元
 お問合せ先：琉球大学医学部
 顎顔面口腔機能再建学
 第115回日本補綴歯科学会総会・学術大会
 日 時：平成18年7月7日(金)～9日(日)
 会 場：札幌コンベンションセンター（札幌）
 大会長：平井 敏博
 お問合せ先：北海道医療大学歯学部補綴
 第36回日本口腔インプラント学会総会・学術
 大会
 日 時：平成18年9月16日(土), 17日(日)
 会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟市）
 大会長：畠 好昭
 事務局：日本歯科大学新潟歯学部
 歯科補綴学第二講座
 準備委員長：渡邊 文彦
 第28回日本歯科技工学会
 日 時：平成18年9月17日(日), 18日(月・祝)
 会 場：広島国際会議場

国際学会

7th International Congress on Maxillo-facial Rehabilitation
 Oct 28-30, 2006, Miami, Florida, USA
<http://www.ismr-org.com>

コンテンツ

第22回学術大会報告	1
受賞者の声	4
AAP 報告	5
AAMP 報告	5
第23回学術大会案内	6
関連学会案内	7

<訂正とお詫び>

ニュースレター第1号（2005年6月1日発行）
 の中で5ページ右段中ほど「コンプリート・コラージュ法」とあるのは、正しくは「プリント・コラージュ法」の誤りでした。訂正いたしますとともに関係の方々には深くお詫び申し上げます。

・学会および広報委員会へのご意見ご要望を
 お寄せ下さい。

・「会員からの声」記事募集しています。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 冲本公繪

委 員 伊藤創造, 松山美和, 山森徹雄

幹 事 諸井亮司

TEL:092-642-6371, FAX:092-642-6374

E-mail:rmoroi@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講
 座 咀嚼機能制御学分野